

令和 4 年 5 月 28 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13859

研究課題名（和文）職業威信に対する多様なジェンダー要因の影響

研究課題名（英文）The Effects of Gender on Occupational Prestige Scores

研究代表者

脇田 彩 (Wakita, Aya)

お茶の水女子大学・基幹研究院・助教

研究者番号：00750647

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、職業威信に対してジェンダーが与える多様な影響を明らかにするという目的を達成するために、人々の職業に対する評価と多様なジェンダー要因について量的社会調査を行い、そのデータを計量社会的に分析した。分析の結果、職業威信を評定する者（調査回答者）が持つジェンダー・ステレオタイプが職業威信の評定に影響すること、具体的にはジェンダー・ステレオタイプに適合的な職業に就く者が高く評定されることが明らかになった。また、このジェンダー・ステレオタイプの影響には職業分類による違いがあることが示された。さらに、評定者の様々な属性の影響が見られることも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、人々の職業に対する評価によって測定される職業威信がジェンダー・ステレオタイプの影響を受けること、その影響には職業分類による違いがあることなどが明らかになった。これによって、職業威信とジェンダーの関連の概要や、ジェンダー・ステレオタイプの働きに多様性があることが示され、階層研究・ジェンダー研究に貢献するとともに、今後の研究の方向性を示すことができた。また、性別職域分離が女性の社会的地位の低さにつながるメカニズムの一端を明らかにすることで、労働市場におけるジェンダー不平等の是正にも貢献している研究成果を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This project conducted the quantitative social research about evaluation of incumbents in various occupations and gender variables and analyzed the data statistically to clarify the effect of gender on occupational prestige scores. The analysis produced the following three findings. First, gender stereotyping had an effect on the evaluation of incumbents and then workers in occupations that tend not to conform to gender stereotypes experience lower occupational prestige. Second, the tendency varied according to occupational categories. Third, there were effects of respondents' attributes on occupational prestige scores for male / female workers.

研究分野：社会学

キーワード：職業威信 ジェンダー・ステレオタイプ 職業とジェンダー ジェンダー少数派

## 1. 研究開始当初の背景

職業威信は、人々の職業に対する評価によって測定される。日本においては、職業威信はジェンダー中立的ではなく、ジェンダー・ステレオタイプの影響を受けることが、これまで行ってきた研究によって既に示唆されていた。評定対象の性別を付した職業威信調査による、これまでの分析結果を解釈すると、人々による職業評定は、(1) ある職業においてのジェンダー多数派とジェンダー少数派の職業威信を比較すると、ジェンダー多数派の方が高く評定されている、(2) しかし、その影響にはいくつかの職業について例外が見られ、なぜジェンダー多数派の方が高い職業威信を得ているのか明確でない、(3) 評定対象の性別を付した職業威信を測定すると、評定者の属性もまた、評定対象の性質とともに職業評価に対して複雑な影響を与えているらしい、と考えられた。

また、これまでの分析で(1) - (3)について詳細に検証しきれなかった理由として、以下の諸点が挙げられる。

- ・これまでの調査設計では、男性が就業者の場合の職業威信スコアと女性が就業者の場合の職業威信スコアは比較できたが、同様の調査対象者によって評定された性別情報なしの職業威信スコアとの比較ができなかった。

- ・(1) のような結果が得られるメカニズムとして、ジェンダー・ステレオタイプの働きが予想できたが、評定者がある職業について持っているジェンダー・ステレオタイプと、その評定者のその職業(あるいは性別情報付きの職業)に対する評定をひも付けられる調査設計で調査が行われてこなかった。

- ・関連して、各職業に対して調査対象者が持つジェンダー・ステレオタイプの測定方法について、再検討する必要がある。

- ・これまでの何回かの調査は全体的に同じ結果の傾向を示したが、各職業への調査対象者の評定については、異なった結果が得られている職業もある。また、(2) に示すように、全体の傾向とは異なる結果を示す職業もある。

- ・評定者の属性情報、とくにジェンダーに関する属性情報が限られていた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、現代日本社会において、職業威信に対してジェンダーが与える多様な影響を明らかにすることである。職業威信は、人々の職業に対する評価によって測定される。日本においては、職業威信はジェンダー中立的ではなく、就業者のジェンダー構成の影響を受けることが、これまで行ってきた研究によって既に示唆されてきた。そこで、量的社会調査を行い、そのデータを計量社会学的に分析することで、人々の職業に対する評価メカニズムにおいて、多様なジェンダー要因がどのように関連しているかを明らかにする。多様なジェンダー要因として、評価対象の性別、評価対象職業に付随するジェンダー・ステレオタイプ、評価者の性別などを考慮する。

## 3. 研究の方法

2020年3月に「現代日本社会の職業に関する調査」と題するインターネット調査を実施し、そのデータを計量社会学的に分析した。調査会社に委託し、全国の20-69歳男女の調査モニターを対象に、票種ごとに同規模の性別・10歳刻みの年齢層のモニターを確保できるよう割り付けを行い、目標回収数まで回答を回収した。6票種計3,120票の回答が得られた。この調査はランダム・サンプリングによって行われていないが、職業威信の評定は回答者の属性が異なっても安定的であること、インターネット調査によって後述する複雑な調査設計が可能になることから、この調査設計を採用した。

調査においては、職業および性別情報付きの評定対象に対する地位評定、性別を含む評定者(回答者)の基本属性、評定対象となる職業に対するジェンダー・ステレオタイプ、一般的な性別分業意識等を調査した。複数種類の調査票を用いることにより、90の職業に対する評定対象の性別が評定に与える影響を検討できる調査設計となった。うち60の職業については、その職業についている人が男性である場合、女性である場合、性別情報がない場合の3つの場合における職業威信を計算できる設計とし、より慎重に性別情報の影響を明らかにすることができる設計とした。また、評定対象となった職業について、評定者が持つジェンダー・ステレオタイプの影響を検討できる設計とした。さらに、職業評定項目の表示順をランダムにする工夫を行った。職業威信の評定やジェンダー・ステレオタイプの測定を行う職業タイトルは、過去に行われた職業威信調査の結果の再検討の結果、公的統計データから読み取れる職業の性質、職業分類、そして票種間のバランスを考慮して選定した。

## 4. 研究成果

多くの方が男性向きであるとした職業のうち、性別情報がない職業威信スコアよりも女性職業威信スコアのほうが低い(女性がより低く評価される)職業は、パイロット、大会社の社長、農業、建築士などであった。男性向きとされた職業のうち、男性がより高く評価された職業は、

宅配便の配達員であった。男性向きとされた職業のうち、女性がより高く評価された職業もあり、それはクレーン運転手、バス運転手、警備員、中小企業の社長、大企業の課長であった。女性向きであるとされた職業については、男性がより高く評価された職業もあり、それは保険外交員と中小企業の事務職員だった。多くの人に女性向きだとされた職業のうち、女性がより高く評価された職業は、歯科助手と航空機客室乗務員であった。女性向きとされた職業の中で、男性がより低く評価された職業は、幼稚園の先生、家政婦／家政夫、看護師、航空機客室乗務員であった。

このことから、男性向きとされた職業のうち、女性が低く評価される職業には、もともとの職業威信が極めて高い専門職や管理職、パイロットや大会社の社長、建築士が含まれていることが分かる。一方で、管理職については女性のほうが高い職業威信を得るという傾向がある。女性向きとされた職業に目を転じると、ケアに関連する、典型的な、いわゆる「女性職」である専門職やサービス職、つまり幼稚園の先生や家政婦、看護師といった職業では、男性がより低く評価される傾向がある。ただ、多くの人に女性向きとされながら、男性のほうが高く評価される職業もいくつか見られる。

全体的には、ジェンダー・ステレオタイプに合わない職業についている人がより低く評価されるという傾向がある。性別情報付き職業威信スコアと性別情報なし職業威信スコアが得られた60の職業について、男性対象の職業威信スコアと女性対象の職業威信スコアの差と、各職業が男性向きとする回答の割合との相関係数は0.327、女性向きとする回答の割合との相関係数は-0.511であった。その結果、図1に示すように、その職業におけるジェンダー多数派の方がジェンダー少数派より高く評価されるという傾向が出てくる（相関係数  $r = -0.343$ ）。

階層線形モデルを用いた多変量解析の結果によると、(1) 性別情報がない場合と比べて、評定者が女性向きであると評価する職業の男性就業者と、評定者が男性向きであると評価する職業の女性就業者が低く評価されることが分かった。そのため、個々の評定者が各職業について持つジェンダー・ステレオタイプが評定に影響を与えているために、多くの人々のジェンダー・ステレオタイプに適合する就業者が適合しない就業者より高い職業威信を得ると考えられる。また、(2) とくに専門職の男性は、評定者がその職業は女性向きであるというステレオタイプを持つ場合により低く評価され、評定者がその職業は男性向きであるというステレオタイプを持つ場合により高く評価される傾向が見られる。ところが、管理職の女性は同職業の男性に比して高い評価を得ている。さらに、(3) 評定者が同性の評定対象を高く評価する傾向が見られた。

以上のように、本研究は、(1) ある職業におけるジェンダー多数派とジェンダー少数派の職業威信を比較した時に、ジェンダー多数派の方が高く評価されるメカニズムとして、評定者である一般の人々のジェンダー・ステレオタイプが評定に影響を与えていることを示した。ただし、(2) この全体的な傾向にはいくつかの職業について例外が見られ、とりわけ職業分類によってジェンダー・ステレオタイプの働きが異なることが示唆された。ある職業が男性向き／女性向きであるステレオタイプと一口に言っても、その中かなり多様性があり、たとえば高度専門職や管理職に求められる男性らしさと、ブルーカラー職業に求められる男性らしさは異なることが考えられる。また、管理職の女性が男性より高く評価されるという傾向も確認されたが、このメカニズムを解明するためにも、ジェンダー・ステレオタイプの多元性を考える必要があると考えられる。さらに、(3) 評定対象の性別を付した職業威信を測定すると、評定者の属性もまた、評定対象の性質とともに職業評価に対して複雑な影響を与えていた。

この研究結果は、職業威信とジェンダーの関連の概要や、ジェンダー・ステレオタイプの働きに多様性があることを示し、階層研究・ジェンダー研究に貢献するとともに、今後の研究の方向性を示すことができた。今後は、近年多く出されているジェンダー・ステレオタイプの多元性に関する研究を参照しながら、職業分類ごとの、とくに管理職と専門職のジェンダー・ステレオタイプの特徴を捉えて、それらと職業威信の関連を見る必要がある。そして、ジェンダー・ステレオタイプのある職業において、少数派の性別が実際にどのように地位を達成していくかを見ていく必要がある。また、本研究は性別職域分離が女性の社会的地位の低さにつながるメカニズムの一端を明らかにし、労働市場におけるジェンダー不平等の是正にも貢献しうる研究成果を示すことができた。

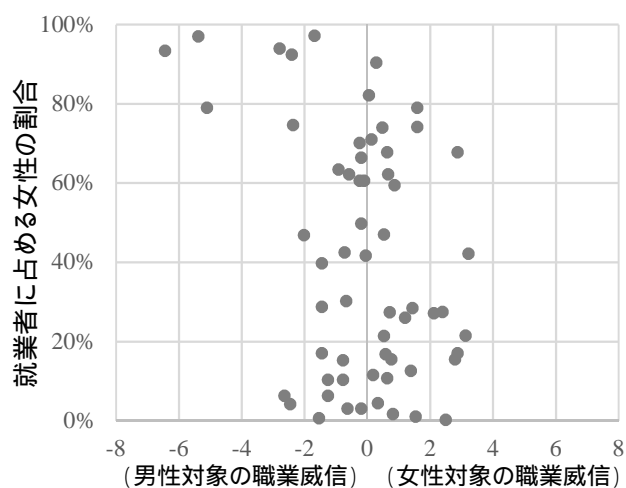


図1 評定対象の性別による職業威信の違いと就業者に占める女性割合

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 脇田 彩	4. 巻 2017
2. 論文標題 地域の階層格差と生活満足度	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報社会学論集	6. 最初と最後の頁 98 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5690/kantoh.2017.98	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 脇田 彩	4. 巻 36
2. 論文標題 ジェンダーと職業威信	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 51 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.36.51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 職業威信に対する多様なジェンダー要因の影響
3. 学会等名 第69回数理社会学会大会 (萌芽セッション)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 どのような職業で男性 / 女性は高く評価されるのか? - 評価対象の性別と職業威信
3. 学会等名 第66回関東社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 評定者のジェンダー・ステレオタイプと職業威信スコア
3. 学会等名 第66回数理社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 ジェンダー・ステレオタイプと職業威信スコア
3. 学会等名 第64回数理社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 どのような職業で男性/女性は高く評定されるのか? 評定対象の性別と職業威信
3. 学会等名 第66回関東社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 脇田彩
2. 発表標題 職業威信とジェンダー
3. 学会等名 2021年度生活社会科学研究会シンポジウム
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------